

# 阪南大学大学院

HANNAN UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL

令和6(2024)年度 大学院案内



HANNAN UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL 2024

## 研究科長メッセージ

### 先進的な研究を通じて未来を切り拓く



企業情報研究科長  
中條 良美

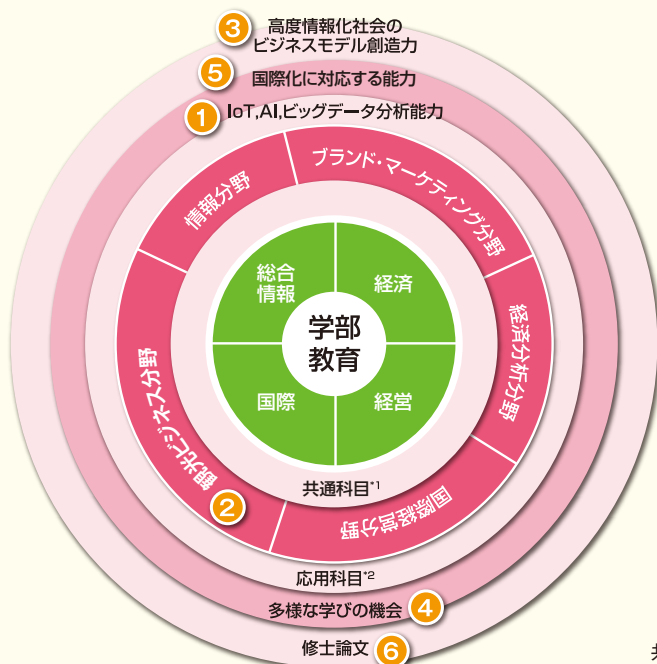
阪南大学大学院企業情報研究科は2000年(平成12年)に創設され、これまで大学や企業に多くの有為な人材を送り出してきました。それは、企業という身近な素材を対象としつつ、地道な研究を通じて社会に還元可能な有意義な知見を、本研究科の院生達が見出してきた結果に他ならないと自負しています。

本研究科では、文系と理系の垣根を超えた教育を志しています。特に、科学的エビデンスにもとづく課題解決能力を身につけてもらうことで、現代社会のニーズに適合した人材の育成に注力してきました。その成果は、学会での研究発表やコンテストにおける受賞をはじめ、数多くの実績によって裏づけられています。

引き続き本研究科は、創造性に富んだ研究を促進し、「ワンランク上のキャリア形成」を目指します。もちろん、期待通りの結果が得られないなど、研究には固有の苦しみがあります。しかし、それを乗り越えて得た知識や技術は、人生の大きな糧となるはずで。未来を切り拓くチャンスを、本研究科で手にしてください。

## 本研究科の特徴

企業情報研究科は阪南大学の4つの学部教育等を基盤に、基礎科目としての共通科目、5つの専門分野科目、発展的な応用科目の3層から構成されています。同時に学術シンポジウムや企業見学会等の科目外活動を設置し、多様な学びの機会を提供しています。修士論文においては2年間の研究の総まとめに位置付けられ、研究能力、論文作成能力、調査能力、プレゼンテーション能力等を培い、それぞれの専門分野における高度情報化社会に対応する人材の育成を行います。企業情報研究科の6つの特徴を以下に示します。



### 企業情報研究科の6つの特徴

- 1 ITと経済・経営系の融合
- 2 全国的に少ない観光ビジネスの教育・研究
- 3 ブランド・観光等のサービスの先端的ビジネスモデル
- 4 大阪技術科学センター等との産学連携や実学教育
- 5 アジア・中国のネットワークを生かした研究や産学連携
- 6 1学年15人に対しその約1.5倍の教員スタッフの指導

共通科目\*1: 英語専門書講読, 情報応用リテラシー, 産学連携講座  
応用科目\*2: プロジェクト研究1・2, 演習1・2

## 本研究科の人材養成に関する理念・目的・ポリシー

### 教育目的

国際化や情報技術(IT)の発展・普及等により急激に変化する現代の経済社会が要請する、実践的かつ創造的な課題解決能力を有する人材の育成

### アドミッション・ポリシー(入学者受入れ方針)

本研究科は情報技術と経営を融合させたビジネスの研究・教育を特色としています。本研究科の方針を理解し、下記の分野で学ぶ人や学際的イノベーターを目指す人、かつそれを遂行するために必要な基礎知識と論理思考を持つ人を求めます。

- ① 経営、情報技術、観光、国際ビジネスに関する研究を志す人
- ② 高度情報社会の経済メカニズムを深く理解し、グローバル化・情報化する現代社会で情報技術と経営を融合する創造的企業人を目指す人
- ③ 自ら課題を持ち、グローバルな視点で産学連携や国際展開をはかる創造的企業人を目指す人

### カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施方針)

本研究科が有する学際的・国際的な資源と産学連携とを活用し、情報技術とビジネスの知識の融合を目指す体系的教育と独創的な研究を目指します。情報技術の応用に関する科目を基礎系科目にすえて、情報化時代の国際経営や観光ビジネス分野の研究を学際的に融合する科目配置としています。

- ① 情報技術のビジネス等への応用に関する理論や最新動向を学ぶ科目である「情報応用リテラシー」を基礎とした上で、各自の専門分野での知識の修得、そして研究へと進むカリキュラム編成
- ② 専門科目は、「国際経営」、「ブランド・マーケティング」、「観光ビジネス」、「経済分析」、「情報」の各分野から選択。また、産学連携科目や社会調査手法、統計分析手法に関する科目も開講
- ③ 指導教員による専門科目と演習、論文指導科目に加えて、論文オリエンテーションと2度の中間報告会等を通じた共同指導体制によって、学生の研究をサポート

### ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)

本研究科は、国際的な視野と展望、そして情報技術に関する知識にもとづいた、専攻分野にかかわる課題探究能力と政策立案能力を備えたビジネスイノベーターの育成を目指しています。この人材養成目的をふまえて、学位認定には以下の能力の修得を求めます。

- ① 「国際経営」、「ブランド・マーケティング」、「観光ビジネス」、「経済分析」、「情報」のいずれかの分野の理論と方法にもとづく基礎的研究能力
- ② 各自の専攻する分野において、高度情報社会に対応した学理と実学を融合する研究論文の作成能力を有するとともに、その成果をビジネス課題の解決に活用できる能力

## 企業情報研究科の5つの専門分野

### ブランド・マーケティング分野

BtoBおよびBtoC企業に求められるマーケティングおよびブランドに関わる理論から事例研究までを包括し、かつ段階的・発展的に学ぶ仕組みが施されています。企業においては経営戦略上、マーケティングの位置づけが大きな比重を占め、また市場におけるコモディティ化に対応するにはブランドを資産として方向づけるブランド戦略やブランド価値を重視した方策が必要となります。

代表科目 マーケティング特論、ブランドビジネス特論

### 観光ビジネス分野

観光ビジネスは、その裾野の広さと国際的な市場拡大の見通しから、経済成長や地域経済の活性化に大きな影響を及ぼす重要なビジネスとなりました。特に少子高齢化が進行する日本では、減少が見込まれる消費需要の補完に加えて、地域の雇用機会創出にも寄与し得ることからも、国・地域にとって重要なビジネスです。観光の産業的・経済的方途を探り、持続可能な観光のあり方を論究し、観光の社会的・政策的用法を探り、まちづくりなど地域社会を活性化する方法などについても現場と連携し、提案します。

代表科目 観光産業特論、観光サービスマネジメント特論

### 情報分野

情報分野では、斬新なITアイデアを自ら発想し、それを実現する基礎知識と実践的技術力を持つ人材の育成を目指します。基礎知識とは情報科学特論、システム設計特論、ネットワーク特論、データベース特論等で講義される理論であり、実践的技術力とはプロジェクト研究科目で実用レベルの情報システム構築により獲得する能力です。基礎知識と実践力に基づき、実用的で新たなIT活用技術の提案や要素技術の高性能化等の最先端研究に取り組むことが情報分野の特徴です。

代表科目 情報システム設計特論、知覚情報特論

### 院生の学外ビジネスプランコンテストで多くの賞を受賞



### 国際経営分野

国際経済理論、国際貿易、国際金融、経営ビジネスを専門としている教授を中心に、国際経済理論と海外ビジネス実務に必要な知識と研究能力を備える人材を養成しています。特にアジア地域経済を長年研究している教員が多く、この地域との研究交流・産学連携交流も盛んに行われています。また、企業団体との連携による大学院連携講座も開講しています。本分野は国際経済関連の教育者・研究者のための最先端の理論研究から、国際ビジネスの第一線で活躍するビジネスリーダーのための基本的な理論並びに国際ビジネス経営分析、実学のアジア地域経済研究などの多様な科目を兼ね備えています。

代表科目 アジア地域経済特論、企業分析特論

### 経済分析分野

ビジネスを含む経済活動や企業を取り巻く一国経済ならびに国際経済に関する諸理論やデータ分析手法を学ぶとともに、国際化、途上国の政治・社会・経済発展、先進諸国における社会福祉など、ビジネスが営まれる政治・社会・経済が直面する諸課題について研究を行います。経済分析分野では、企業の活動を公共の福祉との関係性という観点から相対化し、企業活動のあるべき姿や各国政府ならびに国際機関に求められる諸政策を探求することができる人材を育成します。

代表科目 世界経済特論、応用マクロ経済学特論



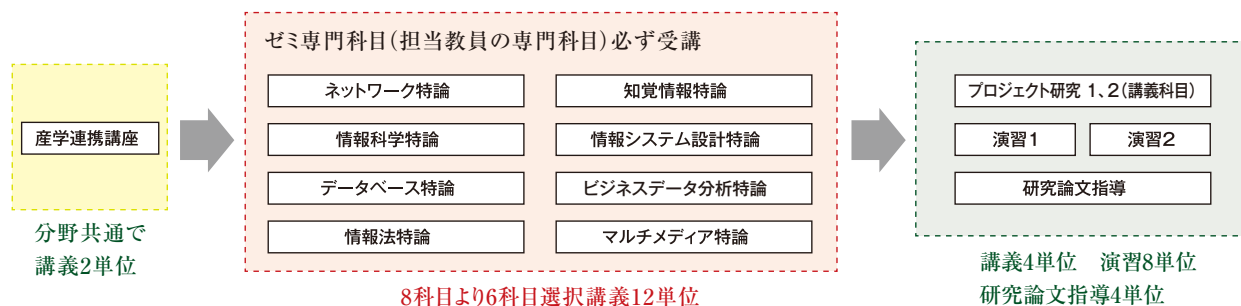
# 充実したカリキュラムマップによる教育体制

## カリキュラムマップ



分野共通の基礎科目を基に、各分野の専門科目を設置しています。また、研究を推進するための演習科目は1年次と2年次にそれぞれ設置され、特に2年次は修士論文作成のために「研究論文指導」と「修士論文」のそれぞれの科目を設置しています。また、基礎的知識が不十分な学生のために、学部聴講科目を設置し、専門科目を受講する前に十分な知識を獲得できるカリキュラム体系となっています。

## 履修モデルの例 (情報系)



## 開講科目

| 分野           | 科目名                                       |   |                                  |
|--------------|---|---|----------------------------------|
| ブランド・マーケティング | マーケティング特論<br>国際マーケティング特論<br>ブランドビジネス特論    | マーケティングリサーチ特論<br>消費者行動特論<br>演習1                 | 演習2<br>研究論文指導                    |
| 観光ビジネス       | 観光計画特論<br>地域社会調査特論<br>観光産業特論              | 観光サービスマネジメント特論<br>演習1<br>演習2                    | 研究論文指導                           |
| 情報           | 情報科学特論<br>マルチメディア特論<br>ネットワーク特論<br>知覚情報特論 | 情報システム設計特論<br>データベース特論<br>情報法特論<br>プロジェクト研究 1,2 | 演習1<br>演習2<br>研究論文指導             |
| 国際経営         | 人事組織特論<br>企業分析特論<br>地域経営特論<br>国際ビジネス特論    | 経営管理特論<br>管理会計特論<br>アジア地域経済特論<br>経営戦略特論         | 財務会計特論<br>演習1<br>演習2<br>研究論文指導   |
| 経済分析         | ビジネスデータ分析特論<br>世界経済特論<br>経済発展特論<br>開発金融特論 | 応用ミクロ経済学特論<br>応用マクロ経済学特論<br>国際協力特論<br>社会政策特論    | 産業集積地域特論<br>演習1<br>演習2<br>研究論文指導 |
| (分野共通)       | 情報応用リテラシー                                 | 産学連携講座  | 英語専門書講読                          |

## 特色ある科目

### 産学連携講座

学生の学理と実学の融合、経営現場に対する理解を深めるため、また社会貢献を实践するため、協定関係にある大阪科学技術センター（OSTEC）の異業種交流会 MATE研（マーケット&テクノロジー研究会）と協力し、2007年からの寄付講座に引き続き産学連携講座を開催しています。企業と大学の研究者による講義と工場見学等を通じて、製造業の実態や最先端の理論を学ぶことができます。特徴は社長を交えた討論と実学としての課題設定等のキャリアデザインに役立つ講義です。



### プロジェクト研究 1,2

講義科目の知識を組み合わせ活用し、実用に耐える情報システムを構築できる実践的技術力の獲得を目指します。ドローン機器やIoTセンサーなどの最先端機器を使い、AIによる機械学習を取り入れてビッグデータを解析し、さらにマルチメディアコンテンツを取り入れたシステムをチームで開発します。初心者向けタイルプログラミングも準備し、様々な能力の学生のチーム開発を体験するとともに、トレンドの技術やソフト、ツール等での開発を体験することができます。

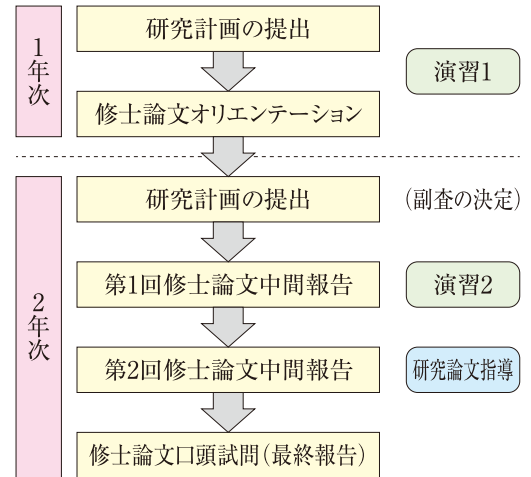


## 研修指導体制 ー充実した研究論文指導

大学院での学びの目標は、単に知識や技能を修得するだけでなく、自ら設定した課題について研究を行なうことにあります。その集大成が修士論文です。

本研究科では、院生は充実した研究論文指導を受けることができます。1年次5月には研究計画を提出し、それに基づいて指導教員からほぼマンツーマンで指導を受けることができます。また2回にわたる修士論文オリエンテーションを通じて研究倫理やデータの収集・分析ノウハウを学ぶこともできます。

2年次からは主査1名、副査2名の計3人の教員による論文指導が行われます。本研究科の特徴でもある多彩な専門分野の教授陣からの指導を通じて研究の幅と深みを増すことができます。



## 学生の研究テーマ(2022年度修了生)

| 研究分野         | 研究テーマ  |
|--------------|--|
| ブランド・マーケティング | オムニチャネルによる消費者の購買行動の変化ーユニクロの事例から                            |
|              | 世界のスマートフォンブランドにおける国際マーケティング戦略の研究ーファーウェイ社とアップル社を事例にー        |
| 観光ビジネス       | 日本の持続可能な観光に向けたインバウンド観光の課題と対応ー訪日中国人リピーターの地域分散化に向けた取り組みを中心にー |
|              | 大阪市における外国人ビジネス起業の展開  |
| 情報           | 3次元点群を用いた橋梁メンテナンス用図面自動生成システムの開発                            |
|              | SLAM技術を用いた3次元GISデータのマーカレスAR表現及び位置補正技術の開発                   |
|              | カメラの撮影位置を利用した3次元点群データへの色情報付加システムの開発                        |
|              | 3次元点群を用いたブレイクライン抽出システムの開発                                  |
| 国際経営         | 日中企業の現地化問題についてートップ人事のグローバル・スタッフィングを中心にー                    |
|              | 製造企業を対象とした早期警報システムの構築                                      |
|              | 中国の住宅ローン保険の現状と整備の方向に関する研究ー住宅購入者の意向と意識を中心にー                 |
|              | 越境ECにおける中国人消費者の購買行動ー網易コアラ海購を中心にー                           |
|              | 日中のEV産業サプライチェーンにおける協力関係                                    |
|              | 全社リスクマネジメントにおける中間管理職の役割と機能                                 |



修士論文審査時の学生プレゼンテーション



修士論文審査の審査員たち



修士論文審査の公聴会に参加する学生たち

## 企業情報研究科の修了生の進路

### 就職先・内定先一覧

|              |   |
|--------------|---|
| 研究教育職        | 大阪工業大学(講師)、安徽財經大学(講師)   |
| 高度専門職        | 東証プライム上場企業：富士通、CIJ、日本金銭機械、光通信、オムロン、日立造船<br>東証スタンダード上場企業：パスコ<br>その他：ライブドア、CIJネクスト、富士通マーケティング、日本NCR 他 |
| ベンチャー・起業(自営) | IoT 農業、アニマライフ 他   |

### 修了生の声

#### 大阪工業大学 講師 尾花 将輝

2008年修了



修士論文テーマ  
マイコンを利用した  
3層ITアーキテクチャ設計の提案と実装

企業情報研究科修了後に国立奈良先端科学技術大学院大学の情報研究科の博士後期課程に進学し、3年で工学博士号を取得し、大阪工業大学の助手に採用されて、現在は講師を務めています。企業情報研究科では研究の基礎をもとに実際のシステムを構築しながら学び、コピー検出システムや手袋型センサーシステムのフィンガーファイブ等の斬新なアイデアのシステムを多く作りました。それをビジネスプランコンテストに応募するなど楽しみながら、研究を進めました。今でも「楽しんでシステムを作りながら勉学と研究をする」の精神で学生指導をしています。

#### IoT農業 妹背 武志

2011年修了



修士論文テーマ  
大規模分散環境を使った  
自然言語処理の精度と性能向上

企業情報研究科修了後に数年間、システム開発会社でシステムエンジニアとして勤務しました。その後、学生時代からの夢でありましたIoT農業を目指して、独立して農業を自営しています。現在は害獣駆除のためにカメラやセンサーを利用したスマートトラップシステムを開発し、IoT農業の一端を担っております。今後はドローンやVR技術などを利用して、実践的に農業に役立つシステムを考えています。これらの発想の原点は企業情報研究科時代の「自ら発想し、独創性のあるシステムを自ら創造する」のポリシーで研究に従事したことだと思っています。

#### 日本金銭機械株式会社 鄧 慧

2016年修了



修士論文テーマ  
日本企業の情報同化型  
モジュール化戦略

企業情報研究科修了後、東証一部上場企業の日本金銭機械株式会社に就職しました。大学院の入学当初は日本語もうまく話せず、不安っぱいの留学生活でしたが、洪先生にご指導いただき有意義な2年間を送ることができました。特に修士論文指導では何十冊の参考文献を提供していただき、就職活動に困ったときも貴重なアドバイスをいただきました。阪南大学の正門前の「本立道生」の石碑の言葉通り、基本をしっかりとし、皆様方の期待に応えられるように成長したいと思います。そして、中国と日本の架け橋になりたいと考えています。

#### 安徽財經大学 講師 李 星

2014年修了



修士論文テーマ  
資生堂の流通チャンネルにおける  
日中比較研究  
一販売会社を中心として

阪南大学での2年間の大学院留学生活は私にとって一生の宝物だと思います。大学院で優しい先生方からたくさんの熱心なご指導をしてくださって、とても感謝いたします。今、日本語の教師として、安徽財經大学で勤めています。多くの中国人の学生が日本語に対して深い興味をもっているため、生徒たちの夢を実現するために頑張っていきたいと思っています。阪南大学の大学院はとても温かい家族で、先生方が親みたいで、クラスメイトも兄弟みたいで、皆で一緒に勉強したり、遊んだりしている間に成長していきます。ぜひ、阪南大学の大学院家族へようこそ。



## 企業情報研究科への進学の特長

企業情報研究科への進学は、勉学による知識や技術の獲得、研究による総合的な能力の獲得以外にも多くのメリットがあります。特にキャリア形成の観点において学部よりも優位な就職や高度な専門職への道も開くことができます。以下にメリットの実例を紹介します。

### 文系出身でも 高度な情報技術獲得可

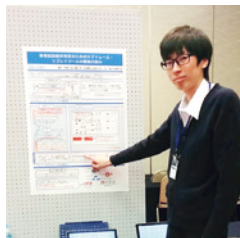
社会科学系等の文系学部出身でも、企業情報研究科にてそれぞれの専門分野知識をより洗練すると同時に、高度情報社会に必須のIoTやAI、ビッグデータ分析等の知識とそれを使いこなす技術を身につけることができます。最先端技術利用を初心者でも習得可能な情報応用リテラシー科目、さらにそれを発展させて実システムを構築するプロジェクト研究科目を設置しています。

### キャリア形成： 人材としての付加価値向上

就職活動時に、応募職種の能力に加え、IoTやAI等の最先端技術の理解と使いこなせる能力のアピールが可能となります。専門知識以外の能力の付加価値が上がり、就職活動に有利になります。  
2019年経団連も「文系理系に関係なく、人工知能(AI)やビッグデータを使う新しいビジネスモデルに必要な人材」を要望しています。

### 専門知識のさらなる充実

学部で学修した専門知識を2年間でさらに充実させます。学部では対象としない専門知識にふれることで、より深い研究を行うことができます。特に企業情報研究科では実践教育を実施するゼミが多いです。産業界で直接役立つ研究成果を提示することができます。



専門性の高い学会での発表

### キャリア形成： 学部よりも有利な内定実績

学部の就職活動との差を以下に示します。

- 学部の就職活動で大阪の中小企業に内定  
⇒大学院修了後、国立大学の博士課程後期に進学。修了後に大学教授に採用。
- 学部の就職活動で内定もえらず。  
⇒大学院修了後、修士論文の研究内容が認められて、一部上場企業に就職。
- 学部の就職活動せず  
⇒大学院の時作ったソフトが認められ、有名ベンチャー企業に就職。

### 高度な課題設定能力と 問題解決能力

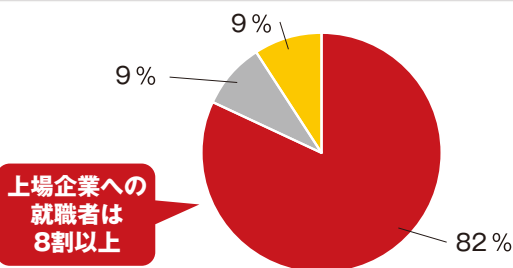
学部での学修では幅広い知識とごく一部の限られた範囲の専門知識の獲得で卒業するケースが多いです。大学院では専門知識のさらなる充実に加え、研究を進めるうえで創造力や発想力、調査能力に基づき、自らの課題設定する能力とその問題解決能力を培うことができます。自ら判断を迫られる専門性の高い職種では課題設定能力、問題解決能力を非常に要求されます。

### キャリア形成： 専門職への職種のひろがり

学部の就職活動と比較すると、応募できる職種が広がります。例えば、学部では「営業職」や「製造」のみが応募対象でしたが、新しい専門知識を身につけることで、「専門職」へ応募職種が広がります。以下に実例を示します。

- (1)学部の就職活動で営業職に応募、内定なし  
⇒大学院修了後、専門性の高いシステムエンジニア職に内定。
- (2)学部の就職活動は一般企業に応募  
⇒研究職として大学教授の助教に応募採用される。

### 阪南大学学部からの進学者の修了後の就職状況 (過去5年)



※数値は四捨五入しています。

- 上場企業
- 進学・その他
- 不明

阪南大学の学部からの進学者の大学院修了後の就職先は、プライム上場企業、スタンダード上場企業等の上場企業へ就職した人が多くを占めています。

## 教員・主要科目紹介

### ブランド・マーケティング分野

教員氏名 <sup>にしぐち</sup> 西口 <sup>しんや</sup> 真也 教授

担当科目 マーケティングリサーチ特論

【講義目的】定量的アプローチによる仮説検証型論文及び企画書の構想力の醸成を目指す。修士論文や修了後のビジネスの現場において、マーケティングリサーチに基づいた企画書等を作成できる知識及び技術の習得を目標とする。

【講義概要】最初に企業等のマーケティング活動におけるマーケティングリサーチの位置づけ、マーケティングリサーチの全体像について説明する。その後、前半は定量調査の中でも質問票調査を取り上げ、その調査結果データの集計及び解析について学習する。後半は、定量調査で検証する仮説構築を目的とした定性調査、定量調査の背景にある統計学の知識の2点について説明する。以上の一連のプロセスを通じて、自ら①マーケティングリサーチ課題の設定、②それに基づく調査仮説の構築、③調査の設計・実施、④調査結果データの集計及び確認、⑤統計解析による仮説の検証、⑥仮説検証の結果に基づく提案、⑦今後の課題の発見の7点についてまとめる力を身に付けられるよう演習形式で授業を行う。

教員氏名 <sup>ひらやま</sup> 平山 <sup>ひろし</sup> 弘 教授

担当科目 ブランドビジネス特論

【講義目的】ブランドの本質を探るために、ブランドの歴史、理論と事例研究の観点から学ぶ。

【講義概要】近年、多くの先進国市場においては製品・サービスの同質化が進み、市場自体も飽和化しており、新たな技術で新製品や新サービスを開発したとしても、すぐに同業他社に追随されるため、有効な競争優位上の戦略とはなりえていない現状が存在している。そうした場合に重要なことはコモディティ化しにくい性質を持つブランディングの構築と市場に展開するためのブランド戦略、そして持続的な競争優位性を高めるために必要なブランド価値の創造である。それゆえ、本講義では(1)ブランド史、(2)ブランド価値の本質、(3)ブランド戦略の3つの面からアプローチすることになる。

教員氏名 <sup>やまうち</sup> 山内 <sup>たかゆき</sup> 孝幸 教授

担当科目 マーケティング特論

情報技術(IT)が進展する一方で、市場における企業競争が激化している。そうした中で企業のマーケティング活動も製品開発、価格の決定、流通チャネルの選択、販売促進の方法などすべての局面において変革が迫られている。この講義では、マーケティングの基礎理論を学修しながら、現実の社会で起こっている企業のマーケティング活動の具体的事象を分析する。



学生による授業中のプレゼンテーション



「ブランドビジネス特論」の紹介

## 観光ビジネス分野

教員氏名 <sup>い</sup> 李 <sup>じょんすん</sup> 貞順 教授

担当科目 観光サービスマネジメント特論

サービスをめぐる社会的環境が大きく変わりつつある中、観光関連事業においては、サービスの改善・向上や従業員の定着率の低さ、生産性の低さなどが課題となっている。そのような経営上の課題解決に向けて授業では、まず「提供するサービスの向上→顧客の満足→顧客の維持→企業の収益性と成長→従業員満足とサービス生産性の向上→提供するサービスの向上」というサイクルを確立するための一般的な理論であるサービスマネジメントの基礎知識について学ぶ。そして、日本の旅行・観光の現況を踏まえ、新しいサービスのパラダイムを考察する。そのうえで、商品としてのサービスの概念や特徴、顧客のニーズにマッチするサービスの生産と顧客の満足度を高めるポイント、顧客満足を実践するための人的マネジメント等、観光ビジネスの実践に向けたサービスマネジメントの仕組みについて考える。

教員氏名 <sup>まつむら</sup> 松村 <sup>よしひさ</sup> 嘉久 教授

担当科目 地域社会調査特論

独創性に富み高く評価される研究論文を書くためには、まず、先行研究や文献資料を読みこなして地域社会が抱える課題を整理することが必要である。次に何よりも、それらの課題を踏まえて、地域社会の実態解明や課題解決に迫る独自の視角を定め、地域調査やフィールドワークを企画し実践し、まとめあげる能力が重要となる。本講義では、受講生個々人の研究関心に基づき、文献資料の収集・読み込み・課題整理を行い、実際に地域調査やフィールドワークを企画し実践し、まとめる方法を論じる。単に方法を論じるだけでなく、個々の受講生が行うフィールドワークも指導する。



「地域社会調査特論」でのフィールドワーク



松村ゼミの活動風景



## 情報分野

**教員氏名** あかい よしゆき 赤井 良行 教授 **担当科目** プロジェクト研究1

現代のデジタルアート制作において、センシング技術やAI技術を用いた映像作品やアート作品がますます注目されている。また、これらの作品はエンターテインメントや広告、教育など、様々な分野で使用されている。これらの分野を学ぶことで、視覚的表現力やアート表現の可能性を理解し、AI技術の応用によってより高度な映像制作ができるようになる。また、これらの技術を活用することで、新たなビジネスや産業が生まれる可能性がある。

本講義では、AI技術やビジュアルプログラミングを用いた映像制作やデジタルアート制作、それらの技術の活用について習得することができる。最新の技術やプロセスに触れ、デジタルアート制作の仕組みや活用方法、システム開発について学習する。講義を通じて、映像作品の意味を考え、AI技術を用いたデジタルアート制作に必要な技術的な知識を身につけることができる。

**教員氏名** きたがわ えつじ 北川 悦司 教授 **担当科目** 知覚情報特論

近年、センサー、家電、車両等の様々なモノがインターネットにつながるというIoT (Internet of Things : モノのインターネット)や、この10年で飛躍的に市場規模が拡大すると言われていたAR (Augmented Reality: 拡張現実)・VR (Virtual Reality : 仮想現実)などが非常に注目されている。これらの実現には、画像処理、3次元計測、3次元点群処理、センサー融合などを含めた知覚情報処理が非常に重要となってくる。本講義や演習では、知覚情報関連技術の最新トピックを交えながら、画像処理や3次元点群処理、センシングなどの技術の習得を目指し、実際に企業と連携するなどして社会のニーズを解決するためのシステムの開発を行う。

**教員氏名** はなかわ のりこ 花川 典子 教授 **担当科目** 情報システム設計特論

現在の情報システムの開発はインフラストラクチャやソフトウェア、クラウドサービス等を含めた複雑なシステム構造で設計されている。さらに、開発プロセスは従来のソフトウェアだけを対象とした開発方法論だけではなく、インフラやクラウドサービスを含む幅広い分野を含む開発方法論が要求されている。

本講義では、実際のプロジェクトの事例を用いてシステム開発の最上流過程を中心に学ぶ。つまり、一般企業による競争入札から始まり、受注後の要件定義、システム設計、それを関連会社へ分担する過程とその管理方法、システム納入とその後の保守活動等をシステム開発会社の実活動をベースに学習する。

**教員氏名** まえだ としゆき 前田 利之 教授 **担当科目** ネットワーク特論

今日の企業情報システムにおいてインターネットは不可欠なものであり、その基盤であるコンピュータネットワーク技術の理解は非常に重要である。

本講義ではインターネット関連技術について最新のトピックを交えつつ、基本技術の理解と応用力の養成を目的とする。まずTCP/IPの基礎を押さえたのちWeb関連技術、特にWebアプリケーション開発技術について、RoR, CakePHP等のアプリケーションフレームワークの応用も含め、適宜実習を行いながら技術の習得を目指す。さらに、ネットワークセキュリティ技術や、集合知 (Wisdom of Crowds) 構築のためのデータマイニング技術についても、実習を通じて理解を深めてもらいたい。

**教員氏名** まつだ たけし 松田 健 教授 **担当科目** データベース特論

AIやIoTの発展には、データサイエンスに関する知見が非常に重要である。そのためには、データを効率よく扱うためのデータ収集やその管理方法を効率化することも重要になる。本講義では、従来からのデータベースの理論に加えて、データを扱うための数理技法やセキュリティ対策など、データベースに関わる様々な技術も総合的に講義の中で紹介する。講義では、様々な業界のデータを事例として紹介し、それらのデータを実際に用いて演習することで、実践的にデータを扱うことができる人材を育成する。

**教員氏名** みよし てつや 三好 哲也 教授 **担当科目** 情報科学特論

経営におけるICT活用により、生産、販売、経理など、経営活動全体がデジタル化され、それによって得られる情報を有効活用した効率的で合理的な意思決定が求められている。このような情報化社会を背景に現代経営においては、情報分析やその活用などの情報処理能力の重要性が増している。経営課題に関する情報分析や活用においては、古典的な統計学や多変量解析に加えて、機械学習や人工知能などの新しい情報処理技術が活用され始めている。従来では処理できないような大量データ (ビッグデータ) の分析も進められている。本講では、上記の数理的手法とその応用方法を理解し、経営諸問題における情報科学的アプローチ法を深く学ぶ。



## 国際経営分野

**教員氏名** いだ まさひろ 伊田 昌弘 教授

**担当科目** 国際ビジネス特論

ICTが進展する中での21世紀の国際ビジネスについて考える。アメリカ・欧州・日本などの先進国国籍企業の変容(オフショア生産、グローバルサプライチェーンなど)と、中国・インドなど新興国国籍企業の台頭(半導体・モバイル、国際M&A、ITアウトソーシングなど)、そしてその両者が織りなす国際競争の経営戦略と組織管理を学ぶ。

さらに、国境を軽く越える国際電子商取引やボーン・グローバル企業、ビットコイン、タックスヘブンといった新しいトピックについても扱うことで、巨大企業だけでなく中小企業や新規ベンチャーの国際化についても考えることとする。

**教員氏名** おく こうへい 奥 康平 准教授

**担当科目** 経営戦略特論

講義内容:経営を「売上や利益を出すための諸活動」と考えるなら、経営戦略は「売上や利益を出すための諸活動をうまく行うための長期方針・方向性」ということができるだろう。A.D.チャンドラーのいう「組織は戦略に従う」の言葉を待つまでもなく、誤った戦略の策定・実施は、企業の衰退・破滅を意味するのである。すなわち現代企業経営において正しい経営戦略を策定、実行していくことは極めて大きな意味を持つのである。

以上より、本科目では、企業が長期的に成長・発展していくための方策について、経営戦略の諸理論の学修を通じて総合的に理解していくことを目的とする。具体的には、意思決定論、競争戦略論、資源ベース論(リソース・ベースト・ビュー:RBV)、コアコンピタンス論、ブルーオーシャン戦略、グローバル戦略などについて、企業事例とともに理解する。加えて、受講者間のディスカッションを通じて、得た知識のさらなる共有・充実もはかっていくこととする。

**教員氏名** さくらだ てるお 桜田 照雄 教授

**担当科目** 財務会計特論

Panasonic(松下電器産業株式会社)やシャープなど留学生にもなじみのある会社の年次報告書(アニュアル・レポート)の読解を通じて、日本の会計制度への理解を深めたいと考えている。会計から読み解くことができる日本の経営の特徴や商慣習についてもふれることとしたい。

**教員氏名** ちゅうじょう よしみ 中條 良美 教授

**担当科目** 企業分析特論

証券投資の代表的な手法として、ファンダメンタル分析とテクニカル分析が広く知られている。いずれも企業の価値という不確定で不安定な大きさに対する測度に、一定の方向性をもたせようとする試みである。講義では前者に焦点をあわせ、企業の財務諸表から読みとられるファンダメンタルが、いかに適切に価値に写像されるかを考える。むろん蓄積された理論を整理することは重要であるが、ここでは受講生の柔軟な発想にもとづき、あらたな証券投資の理論枠組みを構築することが求められる。日進月歩で変化する証券市場をまえに、オリジナルな発想を欠いた単調な思考はあまり意味をもたない。



「企業分析特論」の授業風景



バンコク大学ビジネス経営コースの学生との交流

## 国際経営分野

教員氏名 ほん しほん 洪 詩鴻 教授

担当科目 アジア地域経済特論

企業の対外直接投資 (FDI) における優位 (advantage) を研究し、議論を進める授業。近年、アジア域内のFDIは先進国からのみならず、途上国から先進国へのクロス投資も増え続けている。拡大しつつあるアジア域内サプライチェーンに基づく分業は、それぞれの地域、企業はどんに優位を形成し、また変化したかを考察する。アジア域内の産業レベルの実態調査を進め、技術と市場イノベーションとの関連でダイナミックな動態変化の解明を試みている。

教員氏名 まつした こうしろう 松下 幸史朗 教授

担当科目 経営管理特論

主に企業におけるマネジメントについて考察し、議論を行う。特に重要な視点は、戦略的な計画の策定、組織化、リーダーシップ、モチベーション、人々や業績の評価などである。この授業では、これらのマネジメントに関する主要な概念や理論を学修しながら、多種多様な事例を分析する。

これによって、概念や理論の理解を深化させ、さらに新たな視点の探索を試みる。最終的には、学修した内容や分析した結果を文書にまとめ、報告を行う。このようなことを通じて、経営管理を考察する上で不可欠な枠組みを説明できるようになること、また企業のマネジメントを分析できる能力を向上させることが目標である。

教員氏名 り びよんは 李 炳夏 教授

担当科目 人事組織特論

「仕事、絶え間ない研究、努力によって私自身の存在を开花させること、芸術において、より良きもの、稀なるもの、目に見えぬものを追い求めること」。画家ギュスターヴ・モローの言葉である。経営の現場でも競争相手がすぐには模倣できない目に見えぬものを含めて、価値のあつて、希少性のあるリソースを構築し、活用していくことが大事である。学生諸君も差別化された自分のみの能力 (Capability) を身につけ、競争社会で勝ち残ってほしい。



中国の深センの日系企業訪問 洪ゼミ



中国の広東外語外貿大学訪問 洪ゼミ

## 経済分析分野

教員氏名 いのうえ ひろむ 井上 博 教授

担当科目 世界経済特論

テーマ：グローバル化と企業・国家・国民経済。

グローバル化の進展によって、従来の各国民経済を単位とする国際経済論では現代世界経済を十分に分析することができず、新たな理論的展開が必要となっている。多国籍企業、多国籍銀行に代表されるような企業の国際的展開は今や先進国企業のみならず途上国企業にまで拡大し、しかもその活動領域も旧社会主義諸国や多くの途上国にまで広がっている。こうした資本移動の自由化の進展は旧来の国民経済的枠組みに大きな変更を迫り、さらに国家の経済政策を変容させている。こうしたグローバル化の進行に伴う国際的生産・分業関係の構造、世界的資金循環、さらには、国家の変容について研究を進める。

教員氏名 うだがわ だいすけ 宇田川 大輔 准教授 担当科目 応用ミクロ経済学特論

人、あるいは、企業のような集団の利益や損失が本人だけでなく他者の選択との組み合わせによって決まるような状況を、「ゲーム的状况」と呼びます。たとえば、人間同士が勝敗に何かを賭けてじゃんけんをする状況もゲーム的状况ですし、学生が授業の難易度などを予想しながら履修する科目を選び、教員がそのことを考えながら授業の紹介を書く状況もゲーム的状况です。「ゲーム理論」というのはこのようなゲーム的状况でどのような結果が予想されるかなどを研究する学問になります。この授業では、授業に参加したそれぞれの学生が自分の修士論文で研究しようとしている状況をゲーム理論を用いて分析できるようになることを目標にしています。より具体的には、以下のことができるようになります：

- ・ゲーム理論や経済学などで重要とされる典型的な状況を、ゲーム理論に基づいて分析することができるようになる。
- ・各自の研究対象としたい状況を、ゲーム理論に基づいて分析することができるようになる。
- ・ゲーム理論に基づく分析とその結果を、一般的な言葉で説明できるようになる。

教員氏名 だん かせい 段 家誠 教授 担当科目 国際協力特論

グローバル化が進展する世界において、国際協力の現状と課題に関して、日本の政府開発援助 (ODA) と世界銀行の制度、歴史、具体的プロジェクトについて講義する。

キーワードは、国際連合、世界銀行、非政府組織 (NGO)、南北問題、貧困、開発、国際人権、民主化、アジア、アフリカ、アマゾン等である。将来、外交官、国際連合、世界銀行、アジアインフラ投資銀行 (AIIB)、アジア開発銀行 (ADB)、NGO、商社等で活躍を希望する学生はぜひ受講してほしい。

教員氏名 にし ひろし 西 洋 教授 担当科目 応用マクロ経済学特論

本学大学院では修了のために独創性ある研究論文の作成が求められる。そのためには当該分野の専門論文を、日本語や英語で読みこなす能力が必要になる。

そして専門論文の内容を理解するためには、研究の基本的な技術が求められる。マクロ経済学の分野であれば、経済の理論的基礎の理解や数学的な論理展開が必要不可欠である。

そこで本講義では、まず経済学で使われる代表的な数学を学び、次いで経済成長と所得分配をベースにした基本的な理論を日本語で習得する。これらの成果をもって代表的な英語学術論文を読みこなせるようになることを目的とする。

教員氏名 みその けんきち 御園 謙吉 教授 担当科目 ビジネスデータ分析特論

現代の企業経営およびマクロ経済情報に関するデータ・統計と、その加工・分析方法を解説する。具体的には下記を予定している。

- 1) Excelを利用した簡単で手早いデータ加工 (計算と作図)
- 2) 企業、業界データの入手・加工とその検討
- 3) 各種経済・経営データ掲載サイトの紹介 (含・中国国家統計局)

なお、時間的余裕があれば、修士論文の作成にあたって必要な経営・経済データの入手とその処理方法について個別対応もしたいと考えている。

教員氏名 やぐら けんじろう 矢倉 研二郎 教授 担当科目 経済発展特論

生産活動の効率性や製品の品質を決定するのは広い意味での技術であり、開発途上国の企業や産業の発展は、自国の条件に適合しかつ優れた技術をどれだけ速やかに開発・導入できるかにかかっている。先進国企業が途上国に進出する際にも、現地拠点にいかにして技術を移転するかという問題が浮上する。この講義では、こうした途上国における企業・産業の技術の高度化という問題について、政府の政策、外国企業との取引関係、企業内の人的資源管理といった様々な視点から学んでいく。最終的には、受講生が、自身が研究対象とする国や産業、企業について、技術の高度化の方策を自ら立案できるようになることを目指す。



## 授業風景

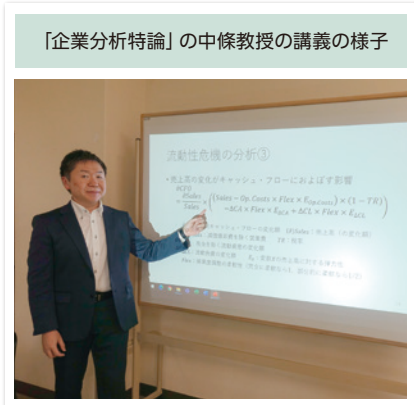
### マンツーマン指導のゼミ活動

一つのゼミの学生は原則4人までです。1学年1人のゼミも多いです。大学院のゼミでの指導はほぼマンツーマン指導となり、充実した研究活動が可能です。



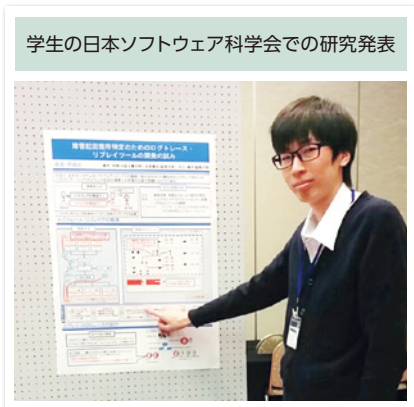
### 専門科目の少人数授業

それぞれの学生の研究専門分野に従って講義を受講します。専門分野ごとの授業となるため少人数講義です。多くても10人程度、少ない時は2、3人の講義となり、教員と学生が直接ディスカッションしながら進めることができます。



### フィールドワークや学会、コンテスト等の学外研究活動

授業は学内の教室にとどまることはありません。フィールドワーク調査や学会での研究成果発表、他大学での研究活動など幅広く行われています。





## 多様な学びの機会

### 生産管理や事業戦略を実践的に学ぶ企業見学会

本研究科では2015年度より企業見学会を実施しています。日本を代表する企業や特色のある企業の現場を見ることで、生産管理や事業戦略についての実践的な知識を学び、研究のヒントを得ることができる貴重な機会です。

| 2022年 万協製薬株式会社  | 2021年 コニカミノルタ株式会社  | 2018年 兵庫県播州織関連の企業   |
|---|--|---|
| <p>万協製薬株式会社(三重県多気郡)を訪れました。同社は、事業の多角化にも努め、スキンケア商品の製造に強みを持っており、同社の持つ卓越した技術が消費者のニーズにどのように応え、さらに今後いかなるビジネスの可能性があるのかを、経営者の講演や施設の視察を通じて考察しました。また、もっと広い視野から、企業が地域社会に貢献しながら発展するために必要な条件とは何なのかを考えることで、現代企業が直面する課題について知見を拡げることができました。</p>  | <p>コニカミノルタ株式会社 Innovation Garden OSAKA Centerを訪れました。同社にはかつてのカメラやフィルム部門はありません。BtoCからBtoBへと、社会の問題や課題解決に向けたSolution企業へと変革を遂げていたところに学ぶべきことが数多くありました。</p>  | <p>播州織産元協同組合、島田製織株式会社等を訪問しました。播州織の製品の企画・生産・流通・販売という川上から川下の各段階の企業の役割や課題について学びました。高付加価値製品の出荷を目指した製品のブランド化のための地域連携活動や個別企業の活動の理解を深めることができました。</p>  |

### 海外の研究者と交流する学術シンポジウムの開催

| 年度                        | テーマ                                    |
|---------------------------|--|
| 2001                      | 中国のWTO加盟と日本企業<br>-グローバルビジネスへの衝撃-       |
| 2008<br><small>国際</small> | 円・人民元と東アジア通貨協力の展望<br>-日中の役割-           |
| 2009                      | 日本企業のCSRをめぐる課題と展望<br>-東アジアのグローバル化への対応- |
| 2010<br><small>国際</small> | アジア新時代の到来と<br>日本型企業システムの行方             |
| 2013<br><small>国際</small> | アジアの時代の日本企業<br>-グローバル人材育成の現状と課題-       |
| 2014<br><small>国際</small> | 日本型オープンイノベーションの目指す方向                   |
| 2015                      | 観光×ICTの融合と相乗効果<br>-新たな可能性を求めて-         |
| 2017<br><small>国際</small> | アジア研究の新視点<br>-日中米のアジア認識-               |
| 2018<br><small>国際</small> | 超スマート社会におけるIoT技術と<br>新しいビジネスモデル        |
| 2020<br><small>国際</small> | 企業のSDGsと環境ビジネスに<br>おける日中企業間協力(オンライン開催) |
| 2022<br><small>国際</small> | ベイエリア経済振興と産官学連携の役割                     |

2022年度までに11回の学術シンポジウムを企画開催しました。11回のうち、8回は世界第一線で活躍する外国人研究者によるご講演と、本学研究者や産・官の実務者たちを交えて、テーマを深めるディスカッションを実施しました。2020年度は本学大学院初となるオンラインでの国際シンポジウムを開催し、コロナ禍においても学生にとって国内外の第一線の研究者・実務者と接する重要な機会となりました。



2022年度国際シンポジウム

### 研究を推進するための修士論文オリエンテーション

研究を推進し、修士論文を執筆するために指導教員をはじめ、副査の教員等のサポート体制が整っています。そのひとつとして、修士論文オリエンテーションがあります。従来の「論文執筆方法」の指導以外に、文献調査方法、アンケート等の統計的データ分析手法、研究倫理を学ぶことができます。また、大学院生全員による研究途中経過報告のプレゼンテーションがあり、他の専門分野の学生の研究にふれることで、研究の幅が広がります。



## 学習研究環境

### 図書館

#### ・蔵書数

本館+分館 合計約55万冊  
所蔵雑誌種数 約2,500種  
電子ジャーナル・電子書籍 多数契約あり

#### ・購入希望制度

大学図書館では、大学院生の研究を支援するための制度を設けています。

購入を希望される本がある場合は、図書館サイトの「マイライブラリ」機能より、パソコン、スマートフォンからの申込みが可能です。

制度の詳細などは、図書館ホームページ

<https://opac-lime.hannan-u.ac.jp/lib/>の、

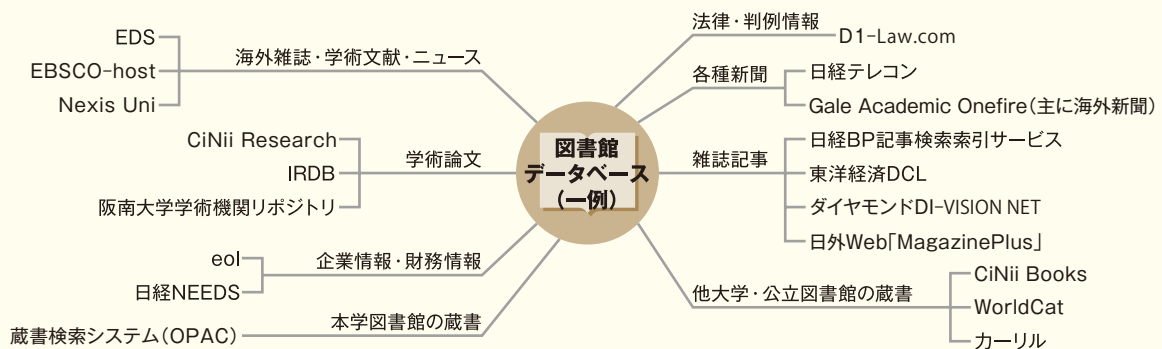
利用案内>図書館の使い方>購入リクエストメニューをご覧ください。



### サポート体制

1. 入手困難な資料でも「相互利用制度」により他大学図書館等の資料を借りたり、コピーを入手することができます。また、資料の所在や利用の方法などの利用相談「レファレンスサービス」をカウンターで受け付けています。
2. 図書館資料をどこからでも検索できる蔵書検索システム(OPAC)や、Webから各種申込みができる図書館個人ポータルサイト「マイライブラリ」が利用できます。
3. 様々な情報を収集するツールとして、図書館ウェブサイトから以下のデータベースが利用できます。
  - (1) 国立情報学研究所「CiNii Research」・・・図書、学術論文を横断検索できる学術情報のポータルサイト
  - (2) 日外Web「MagazinePlus」・・・和雑誌の論文・記事検索
  - (3) 「日経BP記事検索サービス」・・・日経BP社発行の雑誌約60誌の記事検索
  - (4) 「日経テレコン」・・・日本経済新聞社発行の新聞4紙の記事検索、企業検索、人事検索
  - (5) 「日経NEEDS-FinancialQUEST」・・・上場企業の財務データをダウンロードできます。
  - (6) 「朝日新聞クロスサーチ」「ヨミダス歴史館」「毎索」「産経新聞「産経電子版」」・・・朝日・読売・毎日・産経の各種新聞記事の検索
  - (7) 「eol(有価証券報告書)」「eol企業ナビ」・・・企業財務情報と有価証券報告書の検索
  - (8) 「Japan Knowledge Lib」・・・語句、事項など広範囲に検索できる辞書、事典の総合データベース
  - (9) 「Nexis Uni」・・・国外のニュース・新聞記事の検索
  - (10) 「D1-Law.com」・・・国内の法律・判例・文献情報の検索
  - (11) 「EBSCOhost」・・・外国雑誌の記事・論文の検索
  - (12) 阪南大学学術機関リポジトリ・・・阪南大学学会の論文の検索・閲覧

この他にも便利なデータベースが利用できます。



### 大学院生専用の共同研究室

院生専用の共同研究室があり、1人1人に個人専用デスクと鍵のかかるキャビネットが与えられます。また共有のロッカーやパソコン、プリンターも利用でき、気兼ねや不自由なく研究に専念できる環境を整えています。

### 学会発表への助成

院生がその研究成果を学会で発表する際の交通費や参加費を助成しています(年間の上限は1人4万円)。

### コピーカードの配布

院生には学内のコピー機で共通に使用できるコピーカードを配布しています。お金を気にせず研究に必要な資料をコピーすることができます。



## 学費・奨学金制度

### 学費

<大学院>

| 学費等      | 区分 | 入学手続金    | 後期分納入金   | 計          |
|----------|----|----------|----------|------------|
| 入学金      |    | 230,000円 | —        | 230,000円   |
| 授業料      |    | 400,000円 | 400,000円 | 800,000円   |
| 阪南大学学会費※ |    | 5,000円   | —        | 5,000円     |
| 合計       |    | 635,000円 | 400,000円 | 1,035,000円 |

- (1) 入学金については、本学学部を卒業または卒業見込の方は不要です。
- (2) 阪南大学学会費は委託徴収しています。 ※外国人留学生入試は除く。
- (3) 学債、協力金および寄付金は徴収しません。
- (4) 一旦納入された学費等は、返還いたしません。

### 奨学金制度

大学院学生を対象とした奨学金は、次のとおりです。

- ① 日本学生支援機構奨学金  
第一種奨学金(無利子)と第二種奨学金(有利子)があります。  
貸与型奨学金は修了後返還が必要となります。
- ② 阪南大学大学院奨学金  
年間200,000円を給付。返還の必要はありません。
- ③ その他の奨学金  
この他にも日本政府、民間団体や企業等からの奨学金があり、募集依頼があればそのつど、奨学金関連の掲示板に掲示します。

#### ●奨学金別一覧表(2022年度実績)

| 奨学金名        | 貸/給 | 金額  | 取扱窓口  | 留学生 |
|-------------|-----|---|-------|-----|
| 日本学生支援機構奨学金 | 貸与  | 第一種(月額)<br>50,000円<br>88,000円<br>上記から選択                                     | 学生支援課 | ×   |
|             |     | 第二種(月額)<br>50,000円<br>80,000円<br>100,000円<br>130,000円<br>150,000円<br>上記から選択 |       |     |
| 阪南大学大学院奨学金  | 給付  | 年額 200,000円   |       | ○   |

### 就職支援

本学の就職支援は、50周年記念館3Fの「キャリアセンター」で行っています。大学院学生の就職活動については、基本的には学部学生と同じです。大学院1年次生は学部の3年次生と同じスケジュールで就職ガイダンスを受講することができます。就職活動に必要な知識を身に付けてから企業説明会等の就職活動に臨むことができます。

また、学内で開講する資格講座は学部学生と同一の条件で受講することができます(※資格取得支援制度は適用外です)。

### 学生健康保険互助会の医療費補助制度

任意で加入することができる学生健康保険互助会の医療費補助制度があります。この医療費補助制度は、病気やけがなどで病院にかかった場合、一定額を限度に医療費の補助を受けることができます。詳しくは大学HPの学生生活支援「医療費補助制度」をご覧ください。学生支援課までお問い合わせください。

 **阪南大学大学院** 企業情報研究科

本キャンパス 〒580-8502 大阪府松原市天美東5丁目4番33号

あべのハルカスキャンパス 〒545-6023 大阪府大阪市阿倍野区阿倍野筋1丁目1番43号 あべのハルカス23階

TEL 072-332-1224(代) FAX 072-335-7522 URL <https://www.hannan-u.ac.jp/> E-mail [nyushi@hannan-u.ac.jp](mailto:nyushi@hannan-u.ac.jp)